

人・まちをつなぐ公共施設づくり

公共施設における市民参画の取り組み

浅野 健

全国各地の公共施設は、その多くが建設から数十年経過し更新時期を迎えている。建設当時と比べて人口減少、少子高齢化、自治体の財政難、市民ニーズの多様化など状況が変化し、施設運営のあり方が問われるようになってきている。こうした課題の解決に向けて、施設の建て替えや新設に合わせて市民と行政が協働で施設づくりに取り組む事例が各地で出てきている。ここで当社が関わった二つの事例を紹介したい。

松阪市発「鎌田中学校改築に向けて」

三重県松阪市立鎌田中学校は、松阪市の中心部、近鉄・JR松阪駅の北八百メートル程に位置する。この中学校区では、以前からコミュニティ・スクール(※)を基盤とした幼少中連携教育を掲げており、中学校区内の二つの小学校区(第四小学校区、港小学校区)とも日頃から密に連携し、「地元愛」をテーマに児童・生徒の教育に取り組んでいる。

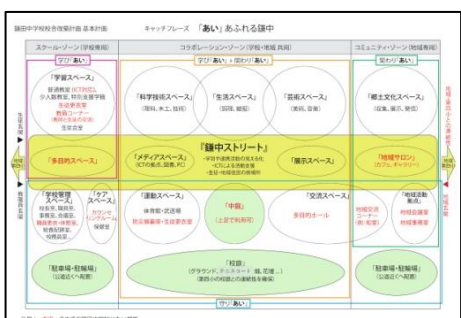
鎌田中学校は、老朽化した校舎の改築に向け、学校運営とともにコミュニティ・スクールを核としたまちづくりの拠点としての校舎づくりをめざし、平成二十七年に基本構想と基本計画を取りまとめた。全体のコーディネートは松阪市と名古屋大学との連携協定に基づいて環境学研究所の小松尚准教授が担い、弊社はその支援をした。取りまとめの過程では、学校関係者、コミュニティ・スクー



ワークショップ当日の風景(上)と鎌田中生徒が発表している様子(下)



名古屋大学小松研究室が作成した模型を見ながら策定委員会で検討



基本構想・基本計画イメージ図



岐阜市発「メディアコスモス」の設立



市民ラジオ「てにておラジオ」



館内ツアー「メディアアドベンチャー」



メディアコスモス設立総会の様子

たと思われる。

この基本構想・基本計画の内容は、今年度実施された基本設計・実施設計の公募型プロポーザルにおいても各社の提案の参考にされ、十一の応募者の中から最優秀案として「石本・アスカ特定建築設計共同企業体」が選定された。今後、基本設計、実施設計を経て平成三十一年度中に新しい校舎が完成する予定であるが、地域の声を反映した施設づくりに向けてどのようなプロセスを経てハードとして具体化されていくのか、動向が注目される。

岐阜市発「メディアコスモス」の設立

岐阜県岐阜市中心部に立地する「みんなの森ぎふメディアコスモス」は、中央図書館、市民活動支援センター等からなる複合施設で、世界的な建築家の伊東豊雄氏が設計に携わっていることでも知られている。さらに、市民参画のコーディネートとして岐阜市出身のアーテイス ト日比野克彦氏(東京藝術大学教授)と、東海地方を中心に様々な市民参画の経験が豊富な三矢勝司氏(NPO法人岡崎まち育てセンター・りた)が招聘され、開館前からワークショップやプレイベントを重ねてきた。

ワークショップに参加してきた市民有志メンバーは、市民活動支援センターの支援の下、二〇一五年七月の開館以降も夏、秋、春と開催された全館イベントに参画するとともに、日々の活動としても市民ラジオ「てにておラジオ」、館内ツア

ー「メディアコスモスアドベンチャー」、メディアコスモス周辺のまちなかを自転車でする「メディアコスモス発けたリングツア」、Facebook を使って情報発信する「メディアコスモス編集部」、誰もが気軽に参加できる情報交換の場として毎月の開催日と開始時間をそのまま名称にした「毎月2・木6 30集まって情報交換会」などを行ってきている。市が建設した拠点施設の運営において市民ならではのアイデアで活動し経験を積んできている。

二〇一六年に入って市民サポータークラブの設立に向けて準備会を立ち上げ、八か月後の九月二十二日にメディアコスモスで開催された全館イベント「秋のメディアコスモスマつり『フムドクワイワイ』」において、市民サポータークラブ「メディアコスモス」の設立総会が行われて正式に発足した。設立総会では、規約や役員などを決めるとともに、設立前から活動している市民ラジオ、館内ツアー、自転車ツアー、情報発信、情報交換会などを当面の活動としていくことを承認した。またその後の記念パーティーには、公募により就任し今や名物館長として知られている中央図書館の吉成館長も参加され、図書館における市民参加への取り組みなどが披露された。

メディアコスモスクラブの設立は、この施設のコンセプトの一つである「絆の拠点」をより推進する力となり、市民が市民の活動を応援する、誰もが気軽に参加できる公共施設に向けて活躍が期待される。

協働により人・まちをつなげる施設づくり

ここで紹介した事例は、一つは公立学校の改築を契機とした市民参画、もう一つは拠点施設の施設を契機とした市民参画の事例である。公共施設建設のプロセスは構想・計画↓設計↓工事↓完成と進むため、市民参画の時期が早い方が市民の意見を空間に反映しやすく、鎌田中学校の事例では構想・計画段階から市民参画が行われていることから、地元へ愛される学校施設になっていくことが今後期待される。一方、ぎふメディアコスモスは工事段階からの市民参画であったが、幸いなことに空間的に素晴らしい施設として完成し、既に何度も開催されている全館イベントでも空間を最大限利用され賑わいを生み出している。

二つの事例を通じ、公共施設の運営を協働で行うことのメリットとしては、市民が関わることで市民同士の交流を生み出し「敷居の低い」施設づくりができること、市民の発想で様々な活動が行われること、時には施設と周辺のまちとが連携するイベントが行われて賑わいが周辺に波及することなどが考えられている。「人・まちをつなぐ施設づくり」に取り組む二つの事例に今後も注目していきたい。

※コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度) 学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子ども達の豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。(参考:文部科学省HP)